

A：十分に理解しておくことが望ましい B：概略理解しておくことが望ましい
 C：知っておくことが望ましい

アレルギー	知識	技術・技能	症例	頁
I. 知識				379
1. 形態, 機能, 病態生理				379
1) アレルギー反応	A			379
2) 抗原 (アレルゲン)	A			379
3) IgE 抗体・免疫グロブリン	A			379
4) 免疫担当細胞 (リンパ球, 好酸球, 肥満細胞, 好塩基球)	A			379
5) 補体	A			379
6) 化学伝達物質 (ヒスタミン, ロイコトリエン, PAF)	A			379
7) サイトカイン/ケモカインとその受容体, 接着分子	A			380
8) アレルギー性炎症	A			380
9) 自然免疫・獲得免疫	A			380
10) 免疫寛容	A			380
11) 免疫不全	A			380
II. 専門的身体診察				380
1. 聴診, 打診 (連続性ラ音, 断続性ラ音, 鼓音, 濁音)	A	A		380
2. 皮膚・粘膜の視診 (蕁麻疹, 接触皮膚炎, アトピー性皮膚炎, 薬疹)	A	B		380
3. 上気道・下気道, 肺, 循環器系の診察 (アレルギー性鼻炎, 気管支喘息, 過敏性肺炎, アナフィラキシー)	A	A		380
III. 専門的検査				381
1. 皮膚検査 (プリックテスト, 皮内テスト, パッチテスト)	A	C		381
2. 総IgE値, 抗原特異的IgE抗体	A	A		381
3. リンパ球刺激試験 (薬物)	A	C		381
4. 好塩基球活性化試験 (ヒスタミン遊離試験など)	A	C		381
5. アレルゲン誘発試験	A	C		381
6. 呼吸機能検査				381
1) 換気力学的検査				381
①ピークフローメータ	A	A		381
②スパイロメトリ (肺気量分画, フローボリューム曲線)	A	A		381
③その他 (残気量, 気道抵抗, コンプライアンス, クロージングボリューム)	B	B		382
2) ガス交換 (呼気ガス分析, 肺胞換気量, 拡散能力, 換気血流比, シャント率)	B	B		382
7. 動脈血ガス分析	A	A		382
8. 経皮的酸素飽和度モニタ	A	A		382
9. 気道過敏性・可逆性試験	B	C		382
10. 呼気一酸化窒素 (NO) 測定	B	C		382
IV. 治療				382
1. 原因抗原 (アレルゲン) の回避・除去	A	A		382
2. 免疫療法 (減感作療法)	A	C		382
3. 薬物療法				383
1) 副腎皮質ステロイド	A	A		383
2) 免疫抑制薬	A	B		383
3) ロイコトリエン受容体拮抗薬	A	A		383
4) 抗ヒスタミン薬	A	A		383
5) その他の抗アレルギー薬 (メディエータ遊離抑制薬, トロンボキサンA2阻害薬, Th2サイトカイン阻害薬)	A	A		383

アレルギー	知識	技術・技能	症例	頁
6) β 刺激薬	A	A		383
7) アドレナリン (エピペン [®])	A	B		383
8) キサンチン薬	A	A		383
9) 和漢薬	B	B		383
10) 抗 IgE 療法	B	B		383
11) 生物学的製剤	B	B		384
4. 吸入療法 [定量噴霧式吸入器 (MDI), ドライパウダー吸入器 (DPI), ネブライザー]	A	A		384
5. その他の治療法				384
1) 生活指導	B	B		384
V. 疾患				384
1. 喘息, 肺疾患				384
1) 気管支喘息 (NSAIDs 過敏喘息を含む)	A		A	384
2) アレルギー性気管支肺真菌症	A		C	385
3) 過敏性肺炎	A		B	385
4) 好酸球性肺炎 (急性および慢性)	A		B	385
5) 薬物誘発性肺障害	A		A	386
2. 全身性疾患・その他				386
1) アナフィラキシー	A		A	386
2) 食物アレルギー (食物依存性運動誘発性アナフィラキシー, 口腔アレルギー症候群を含む)	A		B	386
3) 薬物アレルギー (多形紅斑型薬疹, 薬物性過敏症症候群を含む)	A		B	387
4) 好酸球増多症候群 (好酸球性血管性浮腫を含む)	A		B	387
5) 好酸球性多発血管炎性肉芽腫症	A		C	388
6) 好酸球性胃腸炎・食道炎	B		C	388

アレルギー

I. 知識

1. 形態, 機能, 病態生理

■研修のポイント

アレルギー疾患の診断は、①詳細な医療面接によるアレルゲンの推定、身体診察、尿検査、血液検査などに基づいた臨床症候の把握、②アレルゲンの同定、③画像検査や病理組織学的検査などにより、総合的に行われる。診断上、最も重要な点はアレルゲンの同定であり、治療の原則はアレルゲンの除去ないし回避である。また主要病変部位（結膜、鼻粘膜、気管・気管支、肺実質、消化管、皮膚、血管など）の把握、画像あるいは病理所見に基づく臨床判断、さらにはアレルギー反応を把握する際に、アレルギー・免疫系の形態、機能および病態生理についての知識は必須項目である。

1) アレルギー反応

■到達目標

- ・ I型アレルギー反応の機序と代表的疾患とを説明できる。
- ・ II型アレルギー反応の機序と代表的疾患とを説明できる。
- ・ III型アレルギー反応の機序と代表的疾患とを説明できる。
- ・ IV型アレルギー反応の機序と代表的疾患とを説明できる。

2) 抗原 (アレルゲン)

■到達目標

- ・ 吸入 (空中) アレルゲンを説明できる。
- ・ 食物アレルゲンを説明できる。
- ・ 接触アレルゲンを説明できる。
- ・ 薬物アレルゲンを説明できる。
- ・ 昆虫アレルゲンを説明できる。
- ・ ワクチン・ゼラチンを説明できる。
- ・ ラテックスなどの職業アレルゲンを説明できる。

3) IgE 抗体・免疫グロブリン

■到達目標

- ・ 免疫グロブリンの種類と機能 (特に IgE) とを説明できる。

4) 免疫担当細胞 (リンパ球, 好酸球, 肥満細胞, 好塩基球)

■到達目標

- ・ リンパ球の種類と機能を説明できる。
- ・ Th1/Th2 細胞それぞれが担当する生体防御反応を説明できる。
- ・ 好酸球, 肥満細胞, 好塩基球および単球の機能を説明できる。

5) 補体

■到達目標

- ・ 補体について特に臨床的意義 (補体欠損症, 低補体血症など) を説明できる。

6) 化学伝達物質 (ヒスタミン, ロイコトリエン, PAF)

■到達目標

- ・ 化学伝達物質の種類と作用とを説明できる。

7) サイトカイン/ケモカインとその受容体, 接着分子

■到達目標

- ・代表的なサイトカイン/ケモカインとその受容体, 接着分子について説明できる.

8) アレルギー性炎症

■到達目標

- ・アレルギー性炎症について Th2 細胞や好酸球の役割を含めて説明できる.

9) 自然免疫・獲得免疫

■到達目標

- ・自然免疫と獲得免疫とについて説明できる.

10) 免疫寛容

■到達目標

- ・免疫寛容について説明できる.

11) 免疫不全

■到達目標

- ・免疫不全を呈する病態と代表的疾患とを説明できる.

Ⅱ. 専門的身体診察

1. 聴診, 打診 (連続性ラ音, 断続性ラ音, 鼓音, 濁音)

■研修のポイント

アレルギー疾患の診療において, 胸部聴診と打診との技術に習熟し, 適切にそれぞれの所見をとることが重要である.

■到達目標

- ・胸部聴診で得られた連続性ラ音と断続性ラ音とを聞き分けることができる.
- ・連続性ラ音と断続性ラ音とを呈する病態と代表的な疾患とを説明できる.
- ・打診で得られた鼓音と濁音とを聞き分けることができる.
- ・鼓音または濁音を呈する病態と代表的な疾患とを説明できる.

2. 皮膚・粘膜の視診 (蕁麻疹, 接触皮膚炎, アトピー性皮膚炎, 薬疹)

■研修のポイント

アレルギー疾患の診療において, 皮膚・粘膜所見を見落としなく取ることが求められる. 特に蕁麻疹, 接触皮膚炎, アトピー性皮膚炎および薬疹が重要である.

■到達目標

- ・皮疹の特徴的な分布や形状を説明できる.
- ・蕁麻疹の病因と病態とを説明できる.
- ・接触皮膚炎の病因と病態とを説明できる.
- ・アトピー性皮膚炎の病因と病態とを説明できる.
- ・薬疹の病型 (薬剤性過敏症候群, Stevens-Johnson 症候群を含めて) と病態とを説明できる.

3. 上気道・下気道, 肺, 循環器系の診察 (アレルギー性鼻炎, 気管支喘息, 過敏性肺炎, アナフィラキシー)

■研修のポイント

アレルギー疾患の診療において, 気道・下気道, 肺, 循環器系の所見を見落としなく取ることが求められる. 特にアレルギー性鼻炎, 気管支喘息, 過敏性肺炎およびアナフィラキシーが重要である.

■到達目標

- ・アレルギー性鼻炎の病因と病態とを説明できる。
- ・気管支喘息の病因と病態とを説明できる。
- ・過敏性肺炎の病因と病態とを説明できる。
- ・アナフィラキシーの病因と病態とを説明できる。

Ⅲ. 専門的検査

■研修のポイント

アレルギー疾患の診断において、抗原（アレルゲン）の同定は重要である。皮膚検査項目の感度、特異度および副作用を理解する。総IgE値と抗原特異的IgE（RAST, CAP RAST, MAST）測定はアレルギー疾患の診断だけでなく、アレルゲンの同定に有用であることを理解する。リンパ球刺激試験（薬物）、ヒスタミン遊離試験およびアレルゲン誘発試験の臨床的意義を学ぶ。

気管支喘息などの閉塞性肺疾患の診断と管理とに有用な呼吸機能検査、気道過敏性・可逆性試験および呼気一酸化窒素（NO）測定の臨床的意義を学ぶ。併せて、呼吸不全・酸素化の指標である動脈血ガス分析と経皮的酸素飽和度モニタとの臨床的意義を学ぶ。

1. 皮膚検査（プリックテスト、皮内テスト、パッチテスト）

■到達目標

- ・プリックテスト、皮内テストの臨床的意義と適応とを説明できる。
- ・パッチテストの臨床的意義と適応とを説明できる。

2. 総IgE値、抗原特異的IgE抗体

■到達目標

- ・血清総IgE高値をきたす疾患を説明できる。
- ・抗原特異的IgE（RAST, CAP RAST, MAST）の臨床的意義を説明できる。

3. リンパ球刺激試験（薬物）

■到達目標

- ・リンパ球刺激試験（薬物）の適応と結果とを説明できる。

4. 好塩基球活性化試験（ヒスタミン遊離試験など）

■到達目標

- ・好塩基球活性化試験（ヒスタミン遊離試験など）の適応と結果とを説明できる。

5. アレルゲン誘発試験

■到達目標

- ・アレルゲン誘発試験の適応と結果とを説明できる。

6. 呼吸機能検査

1) 換気力学的検査

①ピークフローメータ

■到達目標

- ・ピークフローメータの意義、目的および測定方法を説明できる。
- ・ピークフローメータの結果を適切に解釈できる。

②スパイロメトリ（肺気量分画、フローボリューム曲線）

■到達目標

- ・スパイロメトリの意義、目的および測定方法を説明できる。
- ・スパイロメトリの結果を適切に解釈できる。

③その他（残気量，気道抵抗，コンプライアンス，クロージングボリューム）

■到達目標

- ・換気力学検査における精密検査（残気量，気道抵抗，コンプライアンスおよびクロージングボリューム）の意義，目的および測定方法を説明できる。
- ・換気力学検査における精密検査の結果を適切に解釈できる。

2) ガス交換（呼気ガス分析，肺胞換気量，拡散能力，換気血流比，シャント率）

■到達目標

- ・ガス交換検査の意義，目的および測定方法を説明できる。
- ・ガス交換検査の結果を適切に解釈できる。

7. 動脈血ガス分析

■到達目標

- ・動脈血ガス分析の意義，目的および測定方法を説明できる。
- ・動脈血ガス分析の結果を適切に解釈できる。

8. 経皮的酸素飽和度モニタ

■到達目標

- ・経皮的酸素飽和度モニタの意義，目的および測定方法を説明できる。
- ・経皮的酸素飽和度モニタの結果を適切に解釈できる。

9. 気道過敏性・可逆性試験

■到達目標

- ・気道過敏性・可逆性試験の意義，目的および測定方法を説明できる。
- ・気道過敏性・可逆性試験の結果を適切に解釈できる。

10. 呼気一酸化窒素〈NO〉測定

■到達目標

- ・呼気一酸化窒素〈NO〉の意義，目的および測定方法を説明できる。
- ・呼気一酸化窒素〈NO〉の結果を適切に解釈できる。

IV. 治療

1. 原因抗原（アレルゲン）の回避・除去

■研修のポイント

アレルギー性疾患の治療の大原則は抗原（アレルゲン）を除去あるいは回避することであることを学ぶ。

■到達目標

- ・主要なアレルゲン（ハウスダスト，花粉，食物，薬物など）について説明できる。
- ・主要なアレルゲンを除去あるいは回避する方法を説明できる。

2. 免疫療法（減感作療法）

■研修のポイント

免疫療法（特に減感作療法）について，特に適応と対象疾患（鼻粘膜アレルギー，気管支喘息）について学ぶ。

■到達目標

- ・免疫療法（特に減感作療法）の作用機序，適応疾患，方法および副作用について説明できる。

3. 薬物療法

■研修のポイント

アレルギー疾患の治療薬として、副腎皮質ステロイド、免疫抑制薬、抗アレルギー薬、抗ヒスタミン薬、β刺激薬、キサンチン薬、和漢薬、抗IgE療法、生物学的製剤などがあげられる。それぞれについて作用機序、適応疾患、副作用を把握しておくことが重要である。

1) 副腎皮質ステロイド

■到達目標

・副腎皮質ステロイドの作用機序、適応疾患、種類および副作用について説明できる。

2) 免疫抑制薬

■到達目標

・免疫抑制薬（シクロホスファミド、アザチオプリン、シクロスポリン、タクロリムス）の作用機序、適応疾患および副作用について説明できる。

3) ロイコトリエン受容体拮抗薬

■到達目標

・ロイコトリエン受容体拮抗薬の作用機序、適応疾患、種類および副作用について説明できる。

4) 抗ヒスタミン薬

■到達目標

・抗ヒスタミン薬の作用機序、適応疾患、種類および副作用について説明できる。

5) その他の抗アレルギー薬（メディエータ遊離抑制薬、トロンボキサン A2 阻害薬、Th2 サイトカイン阻害薬）

■到達目標

・その他の抗アレルギー薬（メディエータ遊離抑制薬、トロンボキサン A2 阻害薬、Th2 サイトカイン阻害薬）の作用機序、適応疾患、種類および副作用について説明できる。

6) β刺激薬

■到達目標

・β刺激薬の作用機序、適応疾患、種類および副作用について説明できる。

7) アドレナリン（エピペン®）

■到達目標

・アドレナリン（エピペン®）自己注射の適応、指導および副作用について説明できる。

8) キサンチン薬

■到達目標

・キサンチン薬の作用機序、適応疾患、種類および副作用について説明できる。

9) 和漢薬

■到達目標

・和漢薬の作用機序、適応疾患、種類および副作用について説明できる。

10) 抗IgE療法

■到達目標

・抗IgE療法の作用機序、適応疾患および副作用について説明できる。

11) 生物学的製剤

■到達目標

- ・生物学的製剤の作用機序，適応疾患，種類および副作用について説明できる。

4. 吸入療法 [定量噴霧式吸入器 (MDI)，ドライパウダー吸入器 (DPI)，ネブライザー]

■研修のポイント

- ・吸入療法 [定量噴霧式吸入器 (MDI)，ドライパウダー吸入器 (DPI)，ネブライザー] の適応，利点および欠点を理解できる。

■到達目標

- ・吸入療法 [定量噴霧式吸入器 (MDI)，ドライパウダー吸入器 (DPI)，ネブライザー] の意義について説明できる。
- ・吸入療法の適応疾患と副作用とについて説明できる。
- ・患者が適切に吸入できるように吸入器の使用法について説明できる。

5. その他の治療法

■研修のポイント

- ・アレルギー疾患に対する患者教育，指導および支援の重要性を理解できる。

1) 生活指導

■到達目標

- ・具体的に増悪因子の回避などの環境整備や薬物の継続服用など，適切な長期管理法を説明できる。

V. 疾患

1. 喘息，肺疾患

1) 気管支喘息 (NSAIDs 過敏喘息を含む)

■研修のポイント

気管支喘息 (NSAIDs 過敏喘息を含む) の定義，病態，診断および治療の概要を学ぶ。

■到達目標

- ▶ 医療面接・身体診察
 - ・患者や家族から適切に病歴聴取ができる。
 - ・身体診察と病歴から迅速かつ的確に喘息の重症度を判定できる。
 - ・鑑別すべき疾患について説明できる。
- ▶ 検査・診断
 - ・気管支喘息の診断に必要な検査のオーダーができる。
 - ・病態に応じた検査の必要性を理解し，選択できる。
- ▶ 治療
 - ・アレルギー専門医，呼吸器専門医などと連携して，症状に応じた治療法の選択ができる。
 - ・急性増悪（発作）期と慢性期の治療・管理の違いを説明できる。
 - ・急性増悪（発作）期には重症度に応じた適正な救急治療薬を選択できる。
 - ・慢性期の長期管理には重症度に応じた段階的薬物療法を選択できる。
 - ・高齢者，気道感染時，妊娠，手術，運動，鼻炎・副鼻腔炎・鼻茸，職業性喘息，胃食道逆流および NSAIDs 過敏喘息には特殊な対応が必要であることが理解できる。
- ▶ 患者への説明および支援
 - ・気管支喘息は発作性の急性疾患ではなく，アレルギー性炎症に基づく慢性疾患であることを説明できる。
 - ・診断，検査および治療方針をアレルギー専門医，呼吸器専門医などの指導のもとに説明できる。
 - ・再受診や緊急受診が必要な場合を患者や家族に説明できる。
 - ・ピークフロー，病状日誌，環境整備を含めた自己管理法を患者や家族に説明できる。
 - ・患者コンプライアンスやアドヒアランス（吸入支援や服薬遵守など）の重要性に配慮しつつ，適切な間

隔で継続的フォローができる。

2) アレルギー性気管支肺真菌症

■研修のポイント

アレルギー性気管支肺真菌症の定義，病態，診断および治療の概要を学ぶ。

■到達目標

- ▶ 医療面接・身体診察
 - ・患者や家族から適切に病歴聴取ができる。
 - ・身体診察と病歴から迅速かつ的確に重症度を判定できる。
 - ・他の肺疾患との鑑別診断ができる。
- ▶ 検査・診断
 - ・アレルギー性気管支肺真菌症の診断に必要な検査のオーダーができる。
- ▶ 治療
 - ・アレルギー専門医，呼吸器専門医などと連携して，症状に応じた治療法の選択ができる。
 - ・治療による主な副作用とその予防，対処法を説明できる。
- ▶ 患者への説明および支援
 - ・アレルギー性気管支肺真菌症の病態について患者や家族に説明できる。
 - ・原因因子と増悪因子を避けることを説明できる。
 - ・今後の対策について，患者や家族に説明できる。

3) 過敏性肺炎

■研修のポイント

過敏性肺炎の定義，病態，診断および治療の概要を学ぶ。

■到達目標

- ▶ 医療面接・身体診察
 - ・患者や家族から適切に病歴聴取ができる。
 - ・身体診察と病歴から迅速かつ的確に重症度を判定できる。
 - ・他の肺疾患との鑑別診断ができる。
- ▶ 検査・診断
 - ・過敏性肺炎の診断に必要な検査のオーダーができる。
- ▶ 治療
 - ・アレルギー専門医，呼吸器専門医などと連携して，症状に応じた治療法の選択ができる。
 - ・治療による主な副作用とその予防，対処法を説明できる。
- ▶ 患者への説明および支援
 - ・過敏性肺炎の病態について患者や家族に説明できる。
 - ・原因因子を避けることを説明できる。
 - ・今後の対策について，患者や家族に説明できる。

4) 好酸球性肺炎（急性および慢性）

■研修のポイント

好酸球性肺炎（急性および慢性）の定義，病態，診断および治療の概要を学ぶ。

■到達目標

- ▶ 医療面接・身体診察
 - ・患者や家族から適切に病歴聴取ができる。
 - ・身体診察と病歴から迅速かつ的確に重症度を判定できる。
 - ・他の肺疾患との鑑別診断ができる。
- ▶ 検査・診断
 - ・好酸球性肺炎（急性および慢性）の診断に必要な検査のオーダーができる。

➤ 治療

- ・アレルギー専門医，呼吸器専門医などと連携して，症状に応じた治療法の選択ができる。
- ・治療による主な副作用とその予防，対処法を説明できる。

➤ 患者への説明および支援

- ・好酸球性肺炎（急性および慢性）の病態について患者や家族に説明できる。
- ・今後の対策について，患者や家族に説明できる。

5) 薬物誘発性肺障害

■研修のポイント

薬物誘発性肺障害の定義，病態，診断および治療の概要を学ぶ。

■到達目標

➤ 医療面接・身体診察

- ・患者や家族から適切に病歴聴取ができる。
- ・身体診察と病歴から迅速かつ的確に重症度を判定できる。
- ・他の肺疾患との鑑別診断ができる。

➤ 検査・診断

- ・薬物誘発性肺障害の診断に必要な検査のオーダーができる。

➤ 治療

- ・アレルギー専門医，呼吸器専門医などと連携して，症状に応じた治療法の選択ができる。
- ・治療による主な副作用とその予防，対処法を説明できる。

➤ 患者への説明および支援

- ・薬物誘発性肺障害の病態について患者や家族に説明できる。
- ・原因薬物を避けることを説明できる。

2. 全身性疾患・その他

1) アナフィラキシー

■研修のポイント

アナフィラキシー，アナフィラキシーショックの定義，病態，診断，重症度判定および迅速な対応の重要性を学ぶ。

■到達目標

➤ 医療面接・身体診察

- ・アナフィラキシー，アナフィラキシーショックの原因について必要な病歴聴取と身体診察ができる。
- ・身体診察と病歴から迅速かつ的確にアナフィラキシーの重症度を判定できる。
- ・鑑別すべき疾患について説明できる。

➤ 検査・診断

- ・アナフィラキシーの診断に必要な検査のオーダーができる。
- ・病態に応じた検査の必要性を理解し，選択できる。

➤ 治療

- ・アレルギー専門医，救急専門医などと連携して，症状に応じた治療法を選択できる。
- ・急性期には重症度に応じた適正な救急治療薬を選択できる。

➤ 患者への説明および支援

- ・アナフィラキシーの病態について患者や家族に説明できる。
- ・原因因子（ハチ毒，食物，薬物など）を避けることを説明できる。
- ・今後の対策について，患者や家族に説明できる。

2) 食物アレルギー（食物依存性運動誘発性アナフィラキシー，口腔アレルギー症候群を含む）

■研修のポイント

食物アレルギー（食物依存性運動誘発性アナフィラキシー，口腔アレルギー症候群を含む）の定義，病態，診断，重症度判定および迅速な対応の重要性を学ぶ。

■到達目標

- 医療面接・身体診察
 - ・患者や家族から適切に病歴聴取ができる。
 - ・食物アレルギーの病態について説明できる。
 - ・食物アレルギーと鑑別すべき疾患について説明できる。
- 検査・診断
 - ・食物アレルギーの診断に必要な検査をオーダーできる。
 - ・食物アレルギーの病態に応じた検査の必要性を理解し、選択できる。
- 治療
 - ・アレルギー専門医と連携して、症状に応じた治療法を選択できる。
 - ・治療効果を判定できる。
- 患者への説明および支援
 - ・食物アレルギーの病態について患者や家族に説明できる。
 - ・診断、検査および治療方針をアレルギー専門医の指導のもとに説明できる。
 - ・食物表示義務について説明できる。
 - ・アドレナリン自己注射（エピペン[®]）について説明できる。
 - ・再受診や緊急受診が必要な場合を患者や家族に説明できる。

3) 薬物アレルギー（多形紅斑型薬疹、薬物性過敏症症候群を含む）

■研修のポイント

薬物アレルギー（多形紅斑型薬疹、薬物性過敏症症候群を含む）の定義、病態、診断、重症度判定および迅速な対応の重要性を学ぶ。

■到達目標

- 医療面接・身体診察
 - ・患者や家族から適切に病歴聴取ができる。
 - ・薬物アレルギーの病態について説明できる。
 - ・薬物アレルギーと鑑別すべき疾患について説明できる。
- 検査・診断
 - ・薬物アレルギーの診断に必要な検査を、リンパ球刺激試験（薬物）を含めてオーダーできる。
 - ・病態に応じた検査の必要性を理解し、選択できる。
- 治療
 - ・アレルギー専門医と連携して、症状に応じた治療法の選択ができる。
 - ・治療効果を判定できる。
- 患者への説明および支援
 - ・薬物アレルギーの病態について患者や家族に説明できる。
 - ・診断、検査および治療方針をアレルギー専門医の指導のもとに説明できる。
 - ・アドレナリン自己注射（エピペン[®]）について説明できる。
 - ・再受診や緊急受診が必要な場合を患者や家族に説明できる。

4) 好酸球増多症候群（好酸球性血管性浮腫を含む）

■研修のポイント

好酸球増多症候群の定義、病態、診断および治療の概要を学ぶ。

■到達目標

- 医療面接・身体診察
 - ・患者や家族から適切に病歴聴取ができる。
 - ・身体診察と病歴から迅速かつ的確に重症度を判定できる。
 - ・好酸球性白血病などとの鑑別診断ができる。
- 検査・診断
 - ・好酸球増多症候群の診断に必要な検査をオーダーできる。

➤ 治療

- ・アレルギー専門医，血液専門医などと連携して，症状に応じた治療法を選択できる。
- ・治療による主な副作用とその予防，対処法を説明できる。

➤ 患者への説明および支援

- ・好酸球増多症候群の病態について患者や家族に説明できる。
- ・今後の対策について，患者や家族に説明できる。

5) 好酸球性多発血管炎性肉芽腫症

■研修のポイント

好酸球性多発血管炎性肉芽腫症の定義，病態，診断および治療の概要を学ぶ。

■到達目標

➤ 医療面接・身体診察

- ・患者や家族から適切に病歴聴取ができる。
- ・身体診察と病歴から迅速かつ的確に重症度を判定できる。
- ・他の肺疾患との鑑別診断ができる。

➤ 検査・診断

- ・好酸球性多発血管炎性肉芽腫症の診断に必要な検査をオーダーできる。

➤ 治療

- ・アレルギー専門医，リウマチ専門医などと連携して，症状に応じた治療法を選択できる。
- ・治療による主な副作用とその予防，対処法を説明できる。

➤ 患者への説明および支援

- ・好酸球性多発血管炎性肉芽腫症の病態について患者や家族に説明できる。
- ・今後の対策について，患者や家族に説明できる。

6) 好酸球性胃腸炎・食道炎

■研修のポイント

好酸球性胃腸炎・食道炎の定義，病態，診断および治療の概要を学ぶ。

■到達目標

➤ 医療面接・身体診察

- ・患者や家族から適切に病歴聴取ができる。
- ・身体診察と病歴から迅速かつ的確に重症度を判定できる。
- ・他の肺疾患との鑑別診断ができる。

➤ 検査・診断

- ・好酸球性胃腸炎・食道炎の診断に必要な検査のオーダーができる。

➤ 治療

- ・アレルギー専門医，消化器専門医などと連携して，症状に応じた治療法を選択ができる。
- ・治療による主な副作用とその予防，対処法を説明できる。

➤ 患者への説明および支援

- ・好酸球性胃腸炎・食道炎の病態について患者や家族に説明できる。
- ・今後の対策について，患者や家族に説明できる。